

令和6年度 第2回野洲市総合計画・総合戦略評価委員会 議事要旨

●日 時

令和6年11月22日（金） 午前10:00～12:00

●場 所

野洲市役所本館2階 第5会議室

●出席委員（委員区分ごとに50音順で記載） ◎：委員長、○：副委員長

1号委員：○上田 洋平委員、◎大田 直史委員

2号委員：飯田 幸弘委員、田中 清三郎委員、林 かずみ委員、
松村 都子委員、

3号委員：森 陽子委員

4号委員：熊本 正幸委員

●事 務 局

布施政策調整部長、小池政策調整部次長、
（企画調整課）玉川課長、中野課長補佐、田中主査

○会議概要

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

○第2次野洲市総合計画の後期基本計画策定に向けて

→各委員から分野1『子育て・教育・人権』の5施策及び分野2『福祉・生活』の6施策に係る取組方針や指標等についてご意見をいただいた。

4. その他

○次回の野洲市総合計画・総合戦略評価委員会について

→令和7年2月上旬に予定しているので、今後、改めて日程調整を行う。

○評価委員の主な意見・質問等

施策	委員からの主な意見・質問
1-1 子育て支援 の充実	②待機児童数(未就学児) ○目標を達成するための具体的な解決策、プランはあるのか。 →達成困難な目標であるが、小規模保育園の開設等により児童の受入拡大を図っており、全体の数字としては改善傾向にある。 ○待機児童に5歳児がおられると集団生活への影響があると思うが、問題ないか。 →待機児童として多いのは1～2歳児となっている。

③児童虐待終結件数/児童虐待件数

○児童虐待の未然防止の重要性を鑑みて、児童虐待件数そのものを指標とした方が、児童虐待を減らすための動機付けにつながるのではないか。

○パーセントで表記すると、母数が分かりにくいのではないか。

○児童虐待件数について未終結となっている数値にも着目すべきではないか。

【その他、指標等に関する意見】

○コロナ禍前後によって子ども側、保護者側双方の子育てに対する環境が変わっており、今後、それを踏まえた上で保育の「質」の充実に向けて取り組んでいく必要がある。そのためには、待機児童数をはじめとする把握しやすい定量的な指標に加え、保育の質を「見える化」していくための仕組みを設け、それを行政として長期にわたり管理・改善していくことが重要であるとする。

○幼児教育である幼稚園と児童福祉である保育園について、現場としてはそれぞれの役割を認識されていると思うが、保護者はどちらも子どもを一時的に預ける施設と捉えられていることが多い。行政としてそれぞれの役割を明確にし、縦横連携しながら職員及び保護者に意識付けしていくことが重要である。

○子育てに関して経年でとれるデータは案外少ない。可能ならば、子育て環境に対するアンケート等により、実感を聞くのも良いのではないか。客観的な数値に基づく指標と、主観的な意見に基づく指標を併せて進捗管理してはどうか。

○アンケート等で意見聴取する場合、現役の子育て世代に対して意見を聴くだけでなく、子育てを終えた人たちに向けて、現状の環境に対してどのように思っているか等、現役世代にも参考となるような内容としてはどうか。

○保育の質を高めるための指標が必要ではないか。例えば、保育士の充足率を指標とすることで、人材確保の推進にもつながると思う。

○人材バンクに登録してもすぐに保育士確保にはつながるとは限らず、慢性的に保育士不足となっている。ただ、保育サービスの質の向上には、職員の資質向上が欠かせず、誰でも保育士として採用するわけにはいかない。一般企業が保育所運営事業に参入できるようになったが、公立園ならではの役割を認識し、先を見据えた計画が必要である。

1-2 青少年の健全育成	①地域子ども教室の参加人数 ○地域子ども教室を盛んにするには、その活動を支えるボランティアが必要であり、その人数(団体数)を指標に加えてはどうか。 ②少年センターの相談件数 ○少年センターの相談内容に対して、その要因の分析を行い、未然防止につなげる対策や、それに関連する指標を設定できないか。 【その他、指標等に関する意見】 ○ヤスクールをはじめとする地域が協力して成り立つ事業については、利用者が将来的に支援者として参画につながるような仕組み、または啓発活動を取り入れることも重要である。
1-3 学校教育の充実	①「家で自分で計画を立てて勉強をしている」児童生徒の割合 ○目標が高すぎる。また、「わかる喜び、できる実感」を重視するのであれば、同じ調査の中でも授業の理解度に係る指標とした方がよいのではないか。 ②「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童生徒の割合 ○「全国学力・学習状況調査」を参照した指標と思うが、調査項目が、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」に昨年度から変わっていると思う。数値が高くなるようになってきていると思うので、見直しが必要と考えられる。 【その他、指標等に関する意見】 ○児童・生徒の自己申告に基づく指標では信頼性に欠けるのではないか。自己申告以外で評価できる指標も必要ではないか。 ○ICTの導入が先生の負担をどれだけ軽減できているか検証する必要がある。負担軽減や教育環境の改善にはICTの活用が重要と思われるが、その活用度・進捗度を指標に設定できないか。 ○地域に根差した学校づくりには地域の協力者、団体を育てる必要があると思うが、そのボランティア人材または協力団体等の数値を指標にしてはどうか。 ○いじめの発生防止のための指標(いじめ件数等)も必要ではないか。
1-4 生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進	②主要文化施設の利用者数 ○SNS の普及により、文化・芸術への多様なアプローチが可能になる中、現行の指標は妥当か。 ④図書館の利用者数 ○現状値に対し、目標値が低いように思われる。

1-5 人権の尊重 と多文化共 生社会の実 現	①人権尊重をめざす市民のつどいへの新規参加者数 ○人権に関して客観的数値での目標設定はなかなか難しいと思う。可能ならば、共生社会に関する意識調査のようなものを行い、その結果を指標とできないか。 ○供給側ではなく、受け手目線の指標の設定が必要ではないか。 ②審議会等委員の女性比率 ○審議会等の委員の女性比率は市役所内の事柄なので、目標としては狭い印象である。(あっても良いが、男女共同参画に関する指標がこれだけというのは厳しい感じがする。) ○野洲市職員の管理職に関する女性比率の向上に関連するような指標を設定してはどうか。 ○自治会活動に関しては女性の参画率が低く、自治会長もほとんど男性の状況である。女性の活躍を考えるならば、もう少し外に向けた活動も必要ではないか。 ③姉妹都市交流事業への参加希望者数 ○姉妹都市交流事業への参加希望者数を、『人権の尊重と多文化共生社会の実現』に係る施策の指標として設定するのは関係が薄いと感じる。(あっても良いが、外国人との共生に関する指標がこれだけというのは厳しいと感じられる。)
2-1 健康づくり の推進と地 域医療体制 の整備	①特定健診受診率 ○検診を受けることは健康づくりの基本となり、非常に重要であると考えられる。 ○特定健診の受診をしない人の要因を分析し、その主な要因に関連する指標を設定することで、未受診者を減らすための取組みを行ってはどうか。 ③喫煙率 ○市全体の健康づくりに対する施策の指標が、喫煙率に限定することに違和感がある。 ○喫煙率はもともと下がっていく傾向にあるので、わざわざ目標に置かなくてもよい気がする。その代わりに、例えば「自殺死亡率」や、地域医療体制にかかる目標を設定できないか。

2-2 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり	①いきいき百歳体操の団体数・参加者数 ○サロンやいきいき百歳体操の参加者は女性が多く、男性が少ない状況である。高齢男性に対して「生きがい」につながるようなボランティア活動、あるいは趣味のグループ活動等の数値を把握し、それを指標に組み込むことで、参画を促すような取り組みができないか。 ②小地域ふれあいサロンの数・実施回数 ○自分自身が高齢者であると認識したくない人がいると思われるので、サロンを敬遠する人も少なくないのではないかな。 ○サロンを利用されている方の数は把握できるが、見守り活動等を通じて取りこぼしとなっている数に意識を向けることも重要である。 ○サロン等の担い手、世話役が高齢化に伴い減少していると思うが、新たな担い手となる人材の数を指標とすることで、支援強化につなげることができるのではないかな。 ③要介護3以上に対する介護老人福祉施設のベッド数の充足率 ○現状、介護福祉施設のベッド数が足りていない状況と思われるが、目標 30% は妥当な数値かな。 ○在宅介護が増加傾向にあるなか、当指標を設定することに違和感がある。社会的な問題として明らかになってきている介護離職や老々介護、ヤングケアラー等に対する支援を計画の中で記載すべきではないかな。
2-3 障がい児・者福祉の充実	①グループホーム数 ○目標値7カ所に対して令和5年度時点で 11 カ所と既に達成しており、目標値の見直しが必要である。 ③早期療育通園事業「にこにこ教室」利用児数 ○通園に至る前の、相談や検査業務にも着目してはどうか。例えば、療育に係る相談件数及び検査件数が何件で、どれくらい早期に対応できたかということ把握しておくことも重要ではないかな。 【その他、指標等に関する意見】 ○障がいを持つ方の就労に関連する指標も設定できるとよい。

2-4 地域福祉の 推進	①地域福祉を推進する市民交流や懇談会の回数 ○この施策に関する指標の設定が難しいことは理解できるが、指標が限定的すぎる印象。ボランティア団体の登録者数、自治会における活動実績など、ほかに補足できるような指標があるとよい。 ○懇談会の開催件数だけを目標とするには指標として不足感がある。懇談会で集まって話をしただけではなく、その後の展開も視野に入れる必要があるのではないか。 ○懇談会はどのようにして開催されるのか。 →基本的に自治会等から依頼があり、タウンミーティング形式で実施している。 【その他、指標等に関する意見】 ○地域の福祉を支援しているボランティア団体等の支援者(団体)数を指標にできないか。
2-5 生活困窮者 等への支援 の充実	①生活困窮者支援事業において支援プランを策定した数 ○生活困窮者にも困窮の度合いや幅があり、深刻な困窮までには至らないが、ゆとりがない家庭も多いと考えられる。各部署間で連携し、このような層も把握していく必要があるのではないかと。 ②包括的な相談窓口数 ○包括的な相談窓口数を指標とするのが良いのか検討が必要。市の予算や体制とも関連すると思うが、もし計画がないのであれば指標とするのは適切ではない。 ○包括的相談窓口の目標4カ所の根拠が分からない。
2-6 消費者行政・防犯対策の充実	①消費生活相談窓口数 ○消費生活相談窓口数は、市の計画としてどうかという問題なので、相談件数に係る指標とする方が適切ではないかと。 ②犯罪発生率※1万人あたりの件数 ○分母が1万人あたりの件数となっており、変動幅が小さいことから、発生率ではなく、件数を指標とした方が分かりやすいのではないかと。

○その他（評価方法や指標の考え方に対する主な意見）

○市の総合計画における指標なので、どうしても大きな目標になってしまう。各部署で施策に関連する個別計画を策定されていると思うので、総合計画と個別計画の組み合わせが重要であるとする。

○指標の設定や管理に必要以上に負担をかけるよりも、施策を進めることの方が重要である。各指標について、目標至上主義ではなく、施策に対する傾向や課題を把握するためのものとして捉えても良いのではないかと。

○施策評価の過程で、課題や問題点を浮き彫りすることも重要である。

以上